

# 平成29年度全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組

(様式1)

和歌山市立湊小学校

【調査の概要】 実施日；平成29年4月18日（火） 実施対象；6年1組 17名

【内 容】 文部科学省が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上のため、児童・生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育施策の成果と課題を検証し改善を図ることを目的として毎年4月に実施されています。

調査教科の国語A、算数Aは、身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい内容で、国語B、算数Bでは、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力などについて出題されています。

A、B共に国語は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の4領域に、算数は、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域に分かれています。

さらに、上記の国語、算数の学力調査の他、質問紙調査があり、児童の学校や家庭における学習状況や生活状況について問われています。

## 【調査結果について】

### 《国語科の傾向と今後の取組》

#### ○知識A問題において良かったところ

漢字の読み書きの問題は、全国レベルを上回り、ほぼ満点に近い。また、1の「互いの話を聞き、共通点や相違点を整理しながら話し合う」問いや2一の「目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして書く」問いでは、全国よりも約7～8ポイント上回っている。

#### ○活用B問題において良かったところ

- ① 2二と2三の「目的や意図に応じて、引用したり、必要な内容を整理して書く」問いでは、全国に比べ約5ポイント高くなっている。
- ② 3一の「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える」問いでは、全国に比べても約13ポイント上回っている。また、この問題も含めてほとんどの問題で無解答率が0という結果になっていることが良かった。

#### ★課題と今後の取組

##### 【A】

- ① これまでの湊っ子タイムでの取組や月・木曜日のフォローアップ学習の成果もあり、漢字の読み書きは、今回はまずまずできている。この調子で指導を継続していきたい。
- ② 4二の「話し合いを通して見つけた俳句のよさを選択する」問いでは、俳句の情景を捉えられていない児童が多く、全国と比較すると約20ポイント低い。今後、さまざまな俳句を音読したり、自分の気に入った題材を探して学習していくことなども有効であると思われる。
- ③ 3の“時の記念日について”の問いは、「目的に応じて文章中から必要な情報を見つけて読む」ものだが、全国よりも約18ポイントの差があり、記録や報告、図鑑や辞典の読みと解釈に慣れていない様子がある。

##### 【B】

- ① 1三の「折り紙の魅力についてスピーチメモとグループの話し合いから出た意見をもとに書く」問いでは、全国より約10ポイント低い。話すときの内容として、事実、意見、感想、丁寧な言葉や場に応じた表現方法を、日常的に注意しながら聞き取ったり、話したりすることが必要である。
- ② 3二の「自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える」問いで、全国より約15ポイント低い。自分の考えを広げたり深めたりするためには、他との共通点や相違点を明らかにしながら、自分の理解度を明らかにし、質問したり、意見を交流させることの指導が大切である。

## 《算数科の傾向と今後の取組》

### ○知識A問題において良かったところ

Aの問題全体では、全国の正答率より約3ポイント下回っていたが、「整数の乗法」「 $5 \div 9$ の分数表示」「8と12の最小公倍数」を求める問いでは、いずれも10ポイント程度上回っている。

### ○活用B問題において良かったところ

3(2)は、「仮の平均の考えを利用して、測定値の平均を求める」問い、4(1)は、「示された式の中の数を表す意味を表と関連付けながら解釈し、言葉で記述する」問いで、いずれも全国の正答率より約20ポイント程度高い。今後も資料を多く活用し、数字の意味も読み取る練習も継続していくことが大切である。

### ★課題と今後の取組

#### 【A】

- ① 2(3)の「 $6 + 0.5 \times 2$ 」という加法と乗法の混合計算で、全国よりも約29ポイント低い。計算の順序のきまりなどを、そうした計算が表出するたびに粘り強く反復練習していく必要がある。
- ② 2(2)の「 $10.3 + 4$ 」という小数と整数の加法の計算では、全国より約17ポイント低い。小数の位の概念の理解、線分図などによる視覚的な大小比較の練習、確認も重要であると思われる。
- ③ 1(2)の「1 mあたりのリボンの値段を基に、買ったリボンの値段を求める」問いは、約13ポイント低い。日常生活の中で小数の長さのリボンや物を買うときの値段を考えてみようとする興味付けや数直線などを用いた指導も重要であると思われる。
- ④ 5の「平行四辺形の面積の半分の面積である三角形を選ぶ」問いで、全国よりも約11ポイント低い。底辺の長さ、高さがそれぞれ等しい平行四辺形と三角形の面積の求め方を振り返ることや三角形の「高さ」の捉え方(図の内部にも外部にもある)などを再確認する必要があると思われる。

#### 【B】

- ① 1(2)の「 $54 - 45$ の計算で示されたきまりを解釈し、異なった数の計算でも同様な関係が成り立つことを図にする」問いで、全国とは約20ポイントの差がある。計算方法の解釈文が長く、その理解が困難であったと思われる。見出した関係が成り立つ理由を図から類推する活動をより取り入れていく必要がある。
- ② 1(3)の「2桁の引き算の答えを求めるきまりを書く」問いで、全国より約7ポイント低い。児童が見出した条件を問い返し、言葉や式で一般化して提示する活動を多く取り入れていきたい。
- ③ 5(2)の「与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、答える」問いで、一人も正解がなく、全国の正答率も13%と低かった。「ひとつの基準量を基にするという考え方」や「数字や言葉を使って説明できるように指導すること」や「百分率」などについても表出するたびに説明していく必要がある。

## 《質問紙調査の結果と今後の課題》

### 【家庭での生活面】

- 「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きる」児童がほぼ全員で、全国と比較すると約20ポイント高い。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意」に当てはまる児童も約22ポイント高い。
- 「普段(月～金曜)、1日当たりどれくらいテレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか」では、3時間より少ない児童の割合は、昨年度と逆転し、県や全国よりも約34ポイント低い。  
逆に、1日あたりの読書をする時間が、30分以上の児童の割合は、全国よりも約20ポイント高い。  
実際、「テレビやゲームをする時間などのルールを家の人と決めている」児童は、全国よりも約10ポイント高くなっている。
- 「普段(月～金曜)、1日当たりどれくらい勉強しますか」では、1時間以上する児童の割合は、全国より約14ポイント低い。

- 「自分には良いところがあると思う」児童の割合が、全国よりも約14ポイント低い。

### ★課題

- ① 普段の生活習慣で大切にしたいことは、規則正しい生活をする。つまり、決まった時間に寝起きしたり、テレビやDVDの時間を決めるなどの約束、習慣付けが大切である。時間を計画的に有効に使うことで、家庭学習の時間を家庭生活の中に確保し、規則的な生活習慣を作り上げていくことができる。昨年度の本校でのテレビやDVDの時間より減少していることは喜ばしい。
- ② 友達や周りの人との話し合いには、相手の気持ちを十分考え、自分の思いもしっかり、わかりやすく伝えるということが大切であるが、自分の考えをまとめ発表することが苦手である。
- ③ 「自分には良いところがあると思う」児童が全国と比較して14ポイント低いことより、もっと自尊感情を高め、自分に自信をもって話したり、行動したりできるようにする指導が必要である。

### 【学校での学習面】

- 「学校で好きな授業がありますか」は、「どちらかといえば当てはまる」も含めると100%であり、大変良い傾向である。また、「5年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動を行っていた」、「5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった」等は、全国よりも約17ポイント高いが、「地域でボランティア活動に参加したことがある」児童は、全国よりも23ポイント低い。
- 「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う」児童は、「どちらかといえばそう思う」を含めると、全国と差はないが、約60%の児童が思っている。また、「授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」は、「どちらかといえばそう思う」児童も含めると、全国よりも16ポイント高い。
- 「人が困っているときは、進んで助ける」、「いじめはどんな理由があってもいけない」、「人の役に立つ人間になりたい」児童は、「どちらかといえば」も含めると、全員が当てはまると答えている。

### ★課題

- ① 学校で、好きな授業があるということは、学力アップのひとつの近道である。何の教科でも良いから自信をもって学習することで、他の教科においてもその自信が大きな力となる。
- ② 本校の児童が、地域の人と関わり、支えられ、育っていることがよくわかる。ボランティア活動への参加の少なさは、地域外への行動範囲が小さいことや地域内でのボランティア活動の少なさが原因とも考えられる。保護者の力も借りながら、さらに地域の方々との交流を深めていく計画などが有効かも知れない。
- ③ 授業等を受けての少ない字数制限の感想文から始まり、字数を徐々に増やすような形の作文指導、授業を受けた後のノート指導（めあて、学習内容、まとめ等が書けているか）、さらにノート指導を受けるための自分での復習、まとめの時間を確保し、きちんとまとめられるような作文指導をしていくことを目指したい。
- ④ 「困っている人を進んで助ける」、「いじめはいけない」、「人の役に立つ人間になりたい」は、6年児童全員が思っているようだが、この思いを日常からの行動につなげられるような取組、授業を継続して、さらに展開していくことが重要である。